

いしのまき 普及センター通信



水稲乾田直播(出芽後)



堆肥散布による土づくり



バイオ炭



水稲乾田直播(生育中期)

みどりの食料システム戦略 実現に向けた取り組み始まる!

2021年5月に農林水産省より「みどりの食料システム戦略」が発表されました。本戦略では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションによって実現していくこととされており、2050年までに化学農薬の使用量をリスク換算で50%低減や化学肥料の使用量を30%低減、有機農業の取り組み面積を25%にするなど14の具体的な目指す姿が示されています。その実現に向けた国の推進総合対策事業の一つである「グリーンな栽培体系への転換サポート」が今年度から石巻管内でもスタートします。令和4年度は、JAいしのまきと石巻普及センターが協力して、管内で普及が進む水稲乾田直播栽培において、堆肥等の地域資源を利用した土づくりを実践し、化学肥料を低減した栽培体系を検証していく予定です。

特集 バイオ炭を用いた温室効果ガスの削減の取り組み

バイオ炭は有機物を炭化したものです。バイオ炭を土壤中に施用することは、炭素を土壤中に効率的に貯留する方法として国際的に認められた方法で、国内ではJクレジット制度という炭素貯留量を売買する制度も運用されています。

今年度は、「グリーンな栽培体系への転換サポート」の取り組みとして、令和4年4月18日に（株）宮城

リスタ大川のほ場において、バイオ炭である籾殻くん炭を水田に散布し、土壌の化学性や物理性、水稻の生育に与える影響を検証する予定です。将来的には、管内で排出される籾殻を利用したバイオ炭を堆肥の副資材として利用し、土づくりと温室効果ガス削減の両立を目指します。



Jクレジット制度



▲ バイオ炭(籾殻くん炭)散布の様子

受賞おめでとうございます!!

第51回日本農業賞 集団組織の部「優秀賞」 株式会社ぱるファーム大曲(東松島市)

平成24年に、被災農地の担い手として設立され、現在約100haで水稻・大豆・麦の輪作体系に取り組む他、大型鉄骨ハウスでミニトマトの周年栽培に取り組んでいます。また、社員を積極的に採用し、若手育成が計画的になされている点などが評価されました。

日本農業賞は、経営や技術の改善に努め、地域社会の発展に尽くした個人や団体を表彰するものです。このうち、集団組織の部へ95件の応募があり、優秀賞(3団体)のひとつに選ばれました。今後の地域農業を先導する農業経営体として期待されます。



▲ 令和4年4月5日(火)
東松島市長を表敬訪問
(左から渥美巖東松島市長、
株式会社ぱるファーム大曲代表取締役小岩敏幸氏)

令和3年度農業・農村女性活躍表彰 地域子育て部門「最優秀賞」

石森さと子氏(東松島市)

震災後いち早く農業法人を再生する一方、JAいしのまき女性部や、東松島市食育推進協議会会長として食育活動に携わり、特にそばの栽培、そば打ちなどの体験活動、小中学校での調理実習や出前講座などを通じた子ども・地域食育活動の推進の功績が評価されました。今後の地域女性のリーダー、経営参画のモデルとして期待されます。



▲ 令和4年2月4日(木)
「2022農山漁村パートナーシップ
推進宮城県大会」にて行われた受賞式
(左から宮城県 遠藤信哉副知事、
石森さと子氏)

春の農作業安全確認運動「しめよう!シートベルト」

令和4年度新規プロジェクト課題の紹介

いちご産地のステップアップを応援します

石巻地域のいちご栽培は昭和40年代から始まり、巨理地域に次ぐ県内第二の産地となっていますが、栽培農家数は高齢化により少しずつ減少しています。

一方で東日本大震災後の復興事業等で建設された栽培施設では、農業法人による先進技術を取り入れた栽培が行われている他、近年は少数ではありますが、新規参入の動きがあります。

普及センターでは、従来から産地を支えてきた栽培農家や農業法人、さらに新規参入者等の多様な担い手が、栽培技術向上や規模拡大など、それぞれの課題を解決しステップアップしていくことを支援し、産地の更なる発展を目指していきます。



▲収穫最盛期を迎えた栽培ハウス

施設園芸の新技术導入による出荷量増加を目指して



▲トマトの生育調査

課題対象の施設園芸3法人は、県の補助事業を活用して新規ハウスや複合環境制御装置等を導入しました。

有限会社サントマト石巻は高糖度トマトの作期拡大、株式会社DannyFarmはなす栽培の面積拡大、株式会社絆粋ファーマーズはほうれんそうと小松菜の周年栽培に取り組んでいます。

普及センターでは、各法人とも新たな品目や新規導入機器の有効活用について、導入から間もないことから、令和4年度は生育・環境データに基づく管理、病虫害防除、土壌分析に基づく施肥管理、作業の効率化について支援し、出荷量の増加を目指していきます。

長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現

東日本大震災で甚大な被害を受けた大川・長面地域では、令和2年度に水田の復旧作業が終了し、令和3年から全ての水田において、水稻の作付けが再開されました。しかし、長面地域の水田は地力が低いため、水稻の収量が低く、令和3年産の米価が低迷した影響もあり、持続的な水田農業を安定して行っていく上で、収量の向上が課題となっています。また、国内の主食用米の消費減少に伴い、飼料用や加工用米といった非主食用米の生産は、今後の大規模土地利用型経営体にとって重要な位置づけとなります。

そこで、株式会社宮城リスタ大川、株式会社ゆいっこ、農事組合法人みのりの3法人を対象に、土づくりとして堆肥を施用したほ場において、飼料用米の収量を増加させる効果的な施肥方法を検討します。さらに繁忙期の作業労働時間のピークの分散効果を検証するため、移植栽培と乾田直播栽培における作業労働時間の比較を行います。

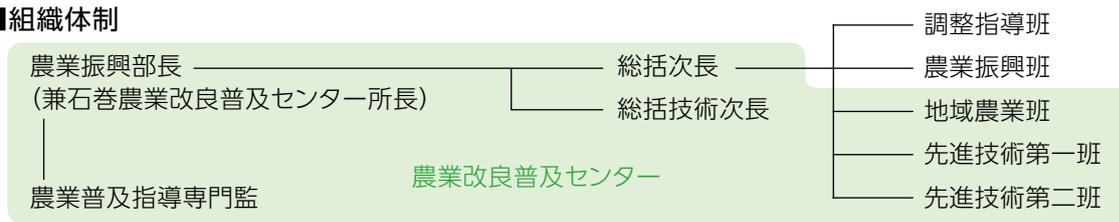


▲勉強会(イネの生育状況について)

農薬危害防止運動「農薬は 周りに配慮し 正しく使用!!」

東部地方振興事務所農業振興部・石巻農業改良普及センターの紹介

■組織体制



■各班の主な業務

班名	主な業務
調整指導班 0225-95-7115	農業振興地域整備・農地法, 農業委員会, 農協, 経営基盤強化促進法, グリーンツーリズム, 農地中間管理事業関係, 農業金融など
農業振興班 0225-95-7809	経営所得安定対策, 農産物の生産振興対策, 農薬・肥料の届出, 環境保全型農業支援対策, アグリビジネス・6次産業化, 農作物認証表示制度, 震災関係交付金など
地域農業班 0225-95-7612	地域農業振興計画推進, 地域農業を担う組織の育成, 多様な担い手の確保・育成, 農村振興など
先進技術第一班 0225-95-7612	作物(米・麦類・大豆等), 畜産の生産技術の相談, 農業生産工程管理(GAP), アグリテックなど
先進技術第二班 0225-95-1435	野菜, 果樹, 花きの生産技術の相談, 経営管理, 農産物利活用など
農地中間管理機構駐在員	農地中間管理事業相談

■活動内容はHPやブログからチェックできます

石巻農業改良普及センターHP



宮城の農業普及現地活動情報ブログ



石巻地域の話題

普及現地活動情報ブログ, いしのまき普及センター通信

農作物の技術情報

技術情報(水稲・麦類・大豆・アスパラガス), 石巻地域水稲乾田直播栽培事例集

活動内容 普及活動検討会

県内の普及センターの日々の活動を紹介しています

新規就農者への支援制度資金が新しくなりました

「農業次世代人材投資資金」や「農の雇用」といった, 新規就農者の方々への支援制度資金が, 令和4年度から新たに「経営開始資金」, 「就農準備資金」, 「雇用就農促進事業」, 「経営発展支援事業」として実施されます。

旧制度との違いなど, 御不明な点は農林水産省HPで御確認いただくか, 又は市役所, 農業改良普及センターへお問い合わせ願います。

農林水産省
「新規就農の促進」HP

